

浸水位の記録

水害時の浸水位が石柱や石碑に記されていることがあります。地域で暮らす人々に水害に備えることの大切さを伝えるとともに、再び水害が起こらないようにという願いが込められています。徳島県美馬市と高知県高知市の例をご紹介します。

■舞中島大洪水記録柱（徳島県美馬市）

昭和29年（1954）9月13日、台風12号により、四国山脈は南東の強風と異常な豪雨に見舞われ、大歩危で572ミリを記録しました。吉野川は大洪水となり、穴吹町（現美馬市）の舞中島では水位がそれまでの最高水位よりも1尺（30cm）高い所まで達しました。舞中島では洪水に備えて、屋敷めぐりに1～1.5mの石垣を積み、その上に中二階の家を建てていましたが、この時の洪水でもほとんどの家が軒まで水に浸かり、荷物を大和（屋根裏に数多くの竹の棧を平行に並べてその上に土をあげてかためたもの）にあげて一夜を明かしました。光泉寺は高さ8尺（240cm）の石垣の上に本堂と庫裏がありますが、浸水位は座上2尺（60cm）ほどに達しました。本堂脇に舞中島大洪水記録柱が設置されています。<笠井藍水編「新編美馬郡郷土誌」1957年及び穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987年>



■大津地区水害記録碑（高知県高知市）

平成10年（1998）9月24日未明から25日朝にかけての豪雨により、高知市は水害に見舞われました。中でも国分川・舟入川の被害は甚大で、家屋・事業所等の床上浸水4,213棟、床下浸水1,955棟、田畑の冠水1,420haに及びました。過去の浸水被害をはるかにしのぐ規模で、一般の家屋以外にも、県立美術館、大津食品工業団地のすべての事業所、大津小学校、大津中学校などが水没しました。大津ふれあいセンター前の大津地区水害記録碑には、2つの水位が刻まれています。地面からの高さを測ると、昭和47年9月の国分川決壊最高水位が138cmであり、平成10年9月の集中豪雨最高水位は223cmでした。碑の裏面には再び災害のないことを願って建立したことが記されています。<大津地区町内会連合会、大津地区コミュニティ計画推進市民会議編「'98高知豪雨災害大津地区の記録」1999年及び高知県土木部河川課編「'98高知豪雨」など>

